



第92回 KTSM 実技セミナー in 宮崎⑧

KTBCの理解&基礎コース

開催報告

●開催概要

会期：令和元年10月12日(土) 10:00～17:00

会場：宮崎県立看護大学

受講者：15名

主催：宮崎口腔リハビリテーション研究会

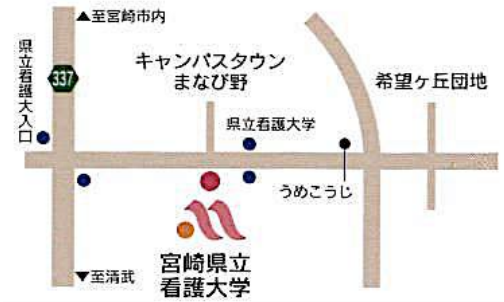
共催：NPO法人 口から食べる幸せを守る会

協賛：株式会社 クリニコ宮崎

株式会社 大塚製薬工場

大和製罐株式会社

プラッツ株式会社



KTBCの理解&基本・応用コース

1. 「あなたも食事サポーターになって“食べたい”を支えよう」
2. 口から食べることをサポートするための包括的食支援スキルの理解と展開
KTバランスチャートの理解と展開方法

口から食べることをサポートすること、つまり、経口摂取を早期に開始し、継続するための支援を行うことで、子どもたちの成長発達、フレイル対策、健康寿命の延長、介護予防となり、医療費・介護費用の削減にもつながる。

何よりも「人生の最期まで食べて幸せに暮らしたい」という誰もが願う人生のテーマの達成となり得るが、そのためには、安全に評価し、経口摂取開始する食事介助技術が必要であり、まずは医療従事者の基礎知識・スキルのアップが重要となる。

本講座は、食べる事と身体活動のメカニズム、誤嚥性肺炎予防、KTバランスチャートでの包括的評価とステップアップ、基本的な食事の食べ方・介助法、医療や地域での食支援法などを理解し、口から食べるのが困難な人たちへの理解と支援ができる人材を増やすことを目的とする。

これまで7回の基礎実技セミナー行ってきたが、ベーシックな手技であり、複数回の受講歴のある医療従事者の比率も高いため、困難場面の対応について学びたいと、受講者から多くの声が聞かれてきた。

今回のセミナーでは、これまでの基礎コースの内容、ベッドサイドスクリーニング評価、食事介助の基本的事項について学び、そのスキルを習得してもらうことで、嚥下障害者の良好な機能を活かすことができる評価スキル、より安全にセルフケア能力を高めることを意図とした食事介助のスキルアップを図る内容に加えて、困難場面の対応についての演習も加えて行うこととした。それとともに、包括的支援のための評価ツールとしてのKTBCでの展開方法を知り、活用していくこと学んでもらう。そして、より多くの嚥下障害者に関わっていける人材の育成を図ることを目的とする。

超高齢化社会となり、専門職だけでは到底対応できなくなることが予想される。市民とともに、「口から食べる」を普及したく、本セミナーを受講した者にはついでには認定証を発行し、広く活動してもらえようようにしていくものとする。

また、本企画を通し、次回以降に企画・運営のリーダーシップを取れる企画側の人材育成も目的としている。

●プログラム概要

1. 市民公開講座
「あなたも食事サポーターになって“食べたい”を支えよう」 【講義】
2. 講義&KTBC 症例グループワーク
「口から食べることをサポートするための包括的スキル」
KTBC の展開方法と支援スキルについて 【講義】
口から食べることをサポートするための包括的スキルを理解し、自らが展開できると共に関係者へ教育的啓発ができる。
 - KTBC 作成の意義と展開の概要
 - KTBC における 4 本柱, 13 項目における構成と連動
 - 基本食事介助スキルについて「KTBC の理解」
 - 症例グループワーク
3. 早期経口摂取開始に向けたベッドサイドスクリーニング評価 【演習】
4. 参加者のニーズ, レディネスに沿っての食事介助技術 【演習】
 - ・ベッド上での食事介助
 - ・シーティング
 - ・車椅子上での食事介助 (セルフケア拡大)
5. 全体まとめ および 質疑応答
認定バッジ交付

●担当講師およびアドバイザー

敬称略

氏名	所属	職種 (摂食嚥下に関する資格)
金 志純 (東京)	NPO 法人口から食べる幸せを守る会 社会福祉法人鶴風会 東京小児療育病院	NPO 法人口から食べる幸せを守る会 理事 看護師 (摂食嚥下障害看護認定看護師) KTSM 実技認定者
清山 美恵 (宮崎)	宮崎口腔リハビリテーション研究会 みえ eat デンタルクリニック	宮崎口腔リハビリテーション研究会 代表 歯科医師 (日本摂食嚥下リハビリテーション学会認定士) KTSM 実技認定者

●実行委員 (宮崎)

宮崎開催 8 回目を迎えました。ここまで、続けられたことは、NPO 法人口から食べる幸せを守る会の共催をいただいたこと、講師のキム先生にわざわざ来宮いただいたことはもちろんですが、宮崎県立看護大学を会場として使わせていただき、同大学の中角助教には企画、準備の段階からずっと協力くださったためです。また、左の実行委員のメンバーが今日の開催まで、準備をしてきてくれました。お陰で、無事に開催できました！感謝の念しかありません。本当にありがとうございました！！



—実行委員—

(敬称略)

金子 美和 (宮崎口腔リハビリテーション研究会世話人, 看護師)
坂田 祐子 (介護老人保健施設 ひむか苑, 看護師)
山田 翔太 (医療法人春光会 東病院, 管理栄養士)
安部 真人 (特別養護老人ホーム 島津之荘, 企画経営)
児玉 美樹 (みえ eat デンタルクリニック, 歯科衛生士)
川島由紀子 (みえ eat デンタルクリニック, 歯科医院事務員)

—特別協力—

川崎 由香 先生 (医療法人十善会 けんなん病院, 内科医師)

●受講者（申込者 15 名について）

今回の受講者は、皆さん医療関係者でした。

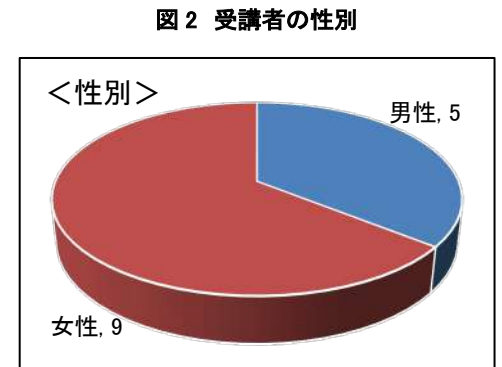
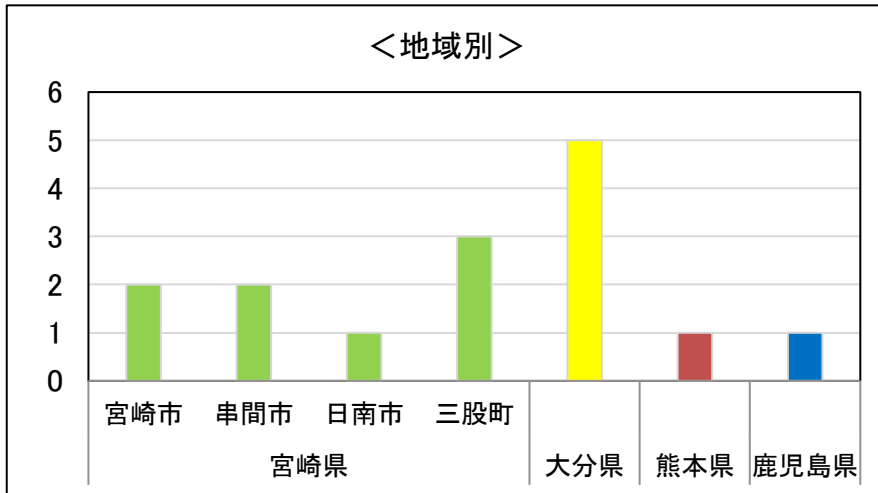


図1 地域別受講者数[人]

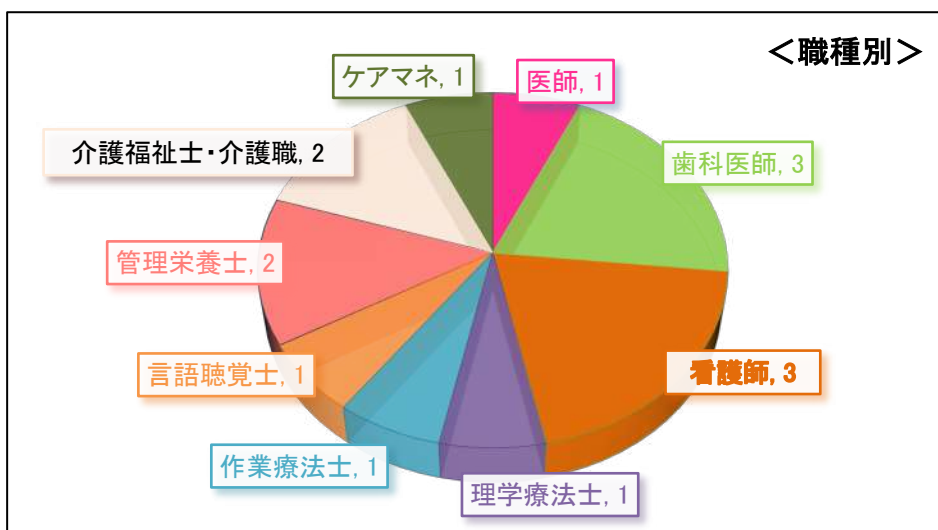


図3 職業別受講者数[人]

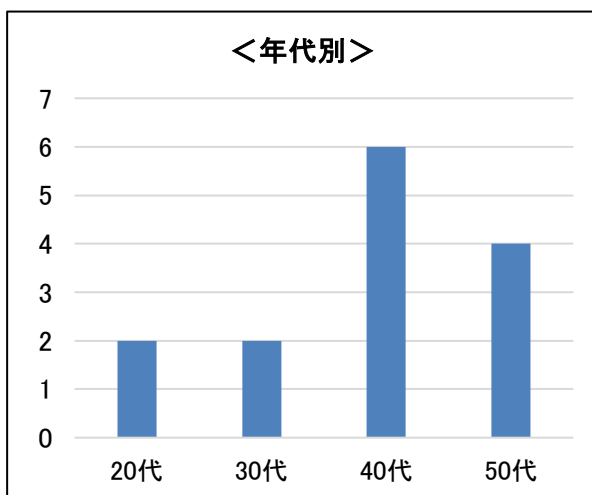


図5 年代別受講者数 [人]

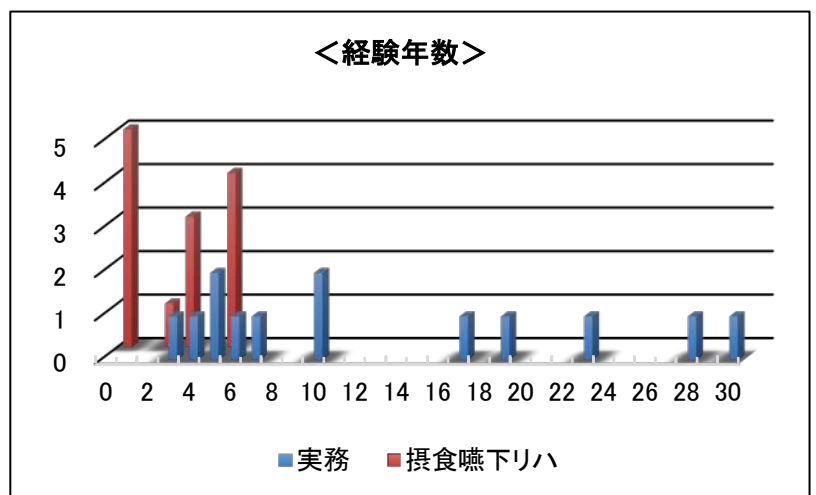


図6 受講者の職種および摂食嚥下リハビリテーションの経験年数 [年]

受講者は、その殆どが実働の年齢層である。今回は摂食嚥下リハの経験のないものの、普段の業務においてその必要性を感じ、参加された方々、摂食嚥下リハの経験年数の短い方が多かったが、職種の実務幅はほぼ均一であることから、現場では摂食嚥下リハが求められ、その経験年数に関わらず、全体的に広くそのスキルを身に付けたいと思われる。これは、これまでのセミナーと同じ傾向であった。

★研修会風景

★講義

●講義①(午前中の講義は市民講座を必修としました)

第2回食事サポーター養成講座「あなたも食事サポーターになって“食べたい”を支えよう」として、市民講座を開きました。

司会は、当研究会の金子美和(右)が担当しました。



金志純先生の講義を聴き、その後のハンズオンセミナーでは、認定食事サポーター数名が受講者への指導に付きました。



使用テキスト、KT スプーン、認定バッジ付き!ゼリー、トロミ剤は、ハンズオンセミナーで使用しました。まずは、講師 金志純先生による講義でした。



市民講座受講風景

初めての参加の方は、「はあ!!」と感激の声を上げて金志純先生いました。目をキラキラ、ギラギラさせて金先生の講義を聴き、テキストに必死にメモを書きさせていました。



●ハンズオンセミナー

参加者同士、2人1組でお互いに患者役、介助者役になり、「不適切」な食事介助、「適切」な食事介助を体験しました。

- ・口を開けたまま
- ・上を向いて
- ・舌を動かさず、...

他にも色々やりました!



まずは自分で不快さを体験



何も言われずに「食事介助」すると、離れた正面から手を伸ばして、立ったまま横上から、左から右手で、こんな感じ。

患者役は、「嫌な」体験をしました。その後で、適切な介助方法を教えてもらいました。

一度、不快な感じを体験し、患者さんたちに苦痛のないやり方を学ぶことがで

き、普段の自分たちの介入の仕方を反省し、明日からは、習った方法で、患者さんに美味しく食事をしてもらいます。



机から離れた椅子に座り、右上肢麻痺で大きく右に傾き、非利き手で食べてみました。うまく食べられません…

足を床にしっかりつけて、机に近づけて椅子に深く座り、両肘を机につけて、非利き手で食べると、食べやすい！



スプーンもティースプーンのように小さいと食べにくく、カレー Spoon のように大きいと、食べさせてもらうと口に入りやすく、口がアップアップしてしまう…
適切な器具を使うことも、食事介助では大事なことだと認識しました。

お茶ゼリーも作ってみました。そして、食べてみました。👉



ハンズオンの中で、実際についやってしまっていることを経験し、その後に適切な方法を知りました。確かにその方が食べやすいし、確かに食べさせやすい。

でもまだちょっとやっただけで、なかなか出来なかったスプーン操作を、「認定食事サポーター」に質問して、教えてもらいました。

明日から早速実践したいですね！！



まとめの講義がありました。始めの講義でも学ぶことが多かったのですが、ハンズオンで経験したお陰で、さらに理解しやすかったです！

「もっともっと聴きたかった」

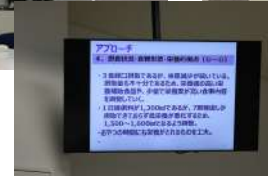
「午後の実技が受けたかった…」

市民講座だけの参加の方々から聞かれたコメントです。

●講義②

口から食べることをサポートするための包括的食支援スキルの理解と展開

KT バランスチャートの理解と展開方法（評価・アセスメント・アプローチ）と支援スキルについて



まず、金志純先生による講義を受けました。

午前中の市民講座で、講義とハンズオンを行いました。KT バランスチャートの13項目についての説明があり、展開の仕方を学び、実際の事例で展開を行いました。



普段からKT バランスチャートを使っている方もいらっしゃいましたが、初めての方も半数以上いらっしゃいました。

事例は、事前に配布してはいましたが、ほとんどの方が予習し、展開してされていました。



各グループ、テキストも見ながら熱心にディスカッションしていました。



アドバイザーも各グループのディスカッションのお手伝いに入りました。



展開発表。どのグループも、評価とアセスメントがしっかりまとめられていて、びっくりでした！嬉しい驚きでした。このように、普段からアプローチできるといいですね！

そして、午後の実技へ ♪

★実技演習

いよいよ実技へ！！



今回は4グループに分かれました。
各グループ、少人数でじっくり実施してもらるようにしました。
始めに自己紹介を行い、すぐにポジショニングに入りました。
2グループは実技セミナー経験者、残りの2グループは初めての受講者で、
摂食嚥下リハも経験のない方のいらっしゃるため、初心者向け、経験者向けとして行いました。



上肢の位置、足底の安定の仕方を「言語化」しながら行って行きました。
クッションやタオルの有効な使い方を学びました。



手の位置は「おなか」しかし、胃の上ではありません。胃を押されると嫌なことも体験しました。



ベッドアップは、足→頭→足→…の準備で行いますが、ベッドがどの位置で曲がるのか、どこの角度をもって「リクライニング角度」とするのかをしっかりと確認しました。



オーバーテーブルの位置も要注意

リクライニング角度は、視線を確認して、頭部の保持も行いましょう。

●早期経口摂取開始に向けたベッドサイドスクリーニング評価



水飲みテスト（1ml→2ml→3ml→3ml→3ml）、食物テストを行いますが、頸部聴診法を併用しての評価です。口腔内残留の確認も行います。これは、普段経験のある受講者も一からやり直し！でした。スプーンは、KT スプーンを使用し、スプーン操作も学びました。



●参加者のニーズ、受者者のレディネスに沿っての食事介助技術

全介助（45度、上肢はテーブルの下へ）



お茶ゼリー→ゼリー：交互嚥下を学びました。スプーン操作も、これまで行っていないやり方で、皆さん、驚きながらも、その操作をマスターしたいと必死でした。患者さんの手で、患者さんが食べている、そういうスプーンの

動きを介助者が代わって行う！

困難事例もやってもらいました。口唇閉鎖ができない場合の介助を学びました。



口を開けない時の介助方法。



スプーンを持っていない方の人差し指で、口唇のアシストを行う。指の使い方をしっかり習得する！

そして、一部介助（60度，咀嚼食使用）へ。

♪ 応用編 ♪



拘縮がある場合。

かけ布団や毛布を上手に使って，安定化を図る。



少人数グループだったこともあり，全員が演習できました。

支持すべきところを，どう支持させればいいのか，ポイントを学びました！



実際に，このように拘縮のある方，いらっしゃいます！

初心者向けグループの受講者は基礎的なことを学んでもらいましたので，困難場面の演習できず，本当に残念でした。

是非，次の機会に実感いただきたいです。

それほど，価値のある演習でした。

＊一部介助(リクライニング角度 60度，咀嚼食)



肘の位置とテーブルの高さの関係が重要です。使用するスプーンの長さも重要です。

スプーンのホール部分が，口腔内に届くように肘の位置を決め，食事（トレー）の高さを調節することもポイントになります。患者さんが上手くスプーン操作できないときは，一部介助を行います。ここで大事なのか，患者さんの手で，患者さん自身が食べているように保持するだけ，です。



そして、ベッド上の演習から、車椅子へ。

＊車椅子上での食事介助(セルフケア拡大)

スタンダード車椅子を使用しました。

座面は座るとたわみ、背面も寄りかかるとたわみました。その補正を学びました。座面、背面にタオルなどを使って、シーティングしていきます。



肘の保持は、タオルやクッションでも行いますが、掛け布団を使用することで、容易にシーティングでき、安定しやすくなることも学びました。

今回は、かけ布団を使って、全体が面で接するため、安定することを体験しました。

そして、円背の患者さんへの対応方法。



いらっしゃいますよね、円背の方。



首の角度、視線が前に向くように車椅子を傾けます。

そして、この時も足底はしっかり安定して着くようにします。

これも、明日からの介入に使えますね！！

基本的なシーティングに加え、応用編まで演習できました。

まずは、普段できるようになるといいですね。

●各グループの受講者の皆さん



1G(アドバイザー:金 志純 先生)



2G(アドバイザー:金 志純 先生)



3G(アドバイザー:清山美恵)



4G(アドバイザー:清山美恵)

★まとめ

実技演習が終わり、まとめとして、質問、意見などの時間としました。



色々な意見ができました。

一日コースの実技セミナーだとは言え、アツと言う間に終わってしまい、皆さん、感動したとのコメント、もっとやりたいと言う意見、実際に困っていることの相談、など、一日ずっと大変だったのにもかかわらず、たくさんの気持ちを聞くことができました。

● 『認定食事サポーター』バッジの授与

今回の実技セミナーも、第81回、第87回の実技セミナーに引き続き、「認定食事サポーター」の認定対象セミナーでしたので、認定食事サポーターバッジを配布しました。

写真撮影係の安部さんも最後まで撮影！👏



もう皆さん、認定食事サポーターです！！

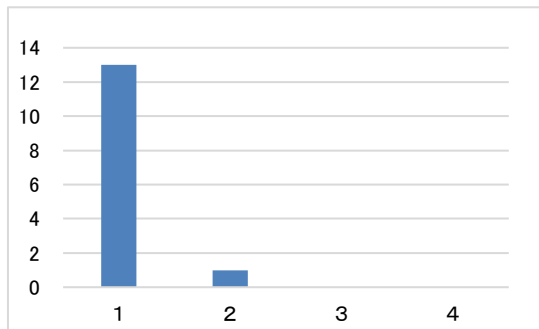
今日学び得た知識を持って、演習で獲得したスキルを活かして、お勤めの職場で、各地域で、受講者の皆さんが活躍して下さることを切に願っています。

●研修を終えて

受講者にアンケートを実施しました。

(アンケート回答者：セミナー受講者15名中、14名の回答。記述内容をそのまま記載しました)

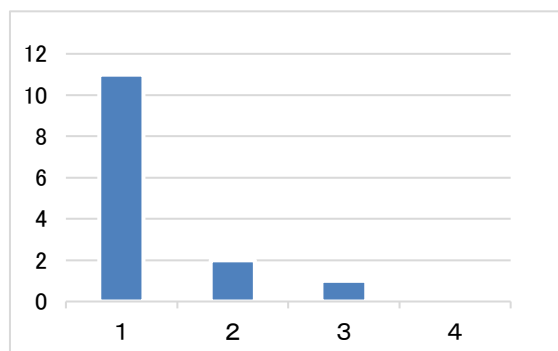
1. 本日のセミナーは、口から食べる技術に関して、ご自身のスキルアップにつながりましたか？



1) かなりそう思う 2) まあまあそう思う 3) ふつう 4) 思わない

- ・ 軽い円背の患者（車椅子）、重症な円背の患者（ベッド）、拘縮のある患者のポジショニング
- ・ 食事介助の方法について、普段自分たちが行う事はかなり少なく、病院や施設によってもやり方が様々でどれが正しいのかもよくわからないまま過ごしてきた部分はありますが、理論的でわかりやすく納得のいくやり方でした
- ・ 普段のセミナーと違って少人数だったのでポジショニングや食事介助などみっちりやることができ、新たに課題を見つけることができました
- ・ 禁食は入院期間含めその人の経口能力、QOLを下げていることについていろいろ考えさせられました
- ・ ベッド上でのポジショニング、軽くひと手間加えるだけで患者さんたちは楽になるのを実感しました
- ・ すべてが理にあっていて素晴らしかったです
- ・ 円背の患者さんのポジショニング方法
- ・ 布団を使う方法
- ・ 体幹をしっかりさせることがとても大事なこと
- ・ 骨盤をたてる事の重要性
- ・ KTBCの付け方の再学習

3. 本日の受講において、受講希望当初の目的は達成できましたか？



1) かなりそう思う 2) まあまあそう思う 3) ふつう 4) 思わない

- ・ 基礎・基本が十分にできていないと思い悩んでいたのが今回のセミナーでよく理解できました
- ・ 臨床の場での疑問を解決できた
- ・ 実技演習で学ぶことができた
- ・ 普段、疑問に思っていることを先生方やテキストにおいて考え学ぶことができた
- ・ 介助方法（主に口に運ぶスプーンの角度）など、介助される側になっての目線で介助を行うことができた
- ・ 自分自身が体験し、患者様（利用者様）の気持ちがわかったので
- ・ シーティングをたくさん学ぶことができた（困難例も含める）

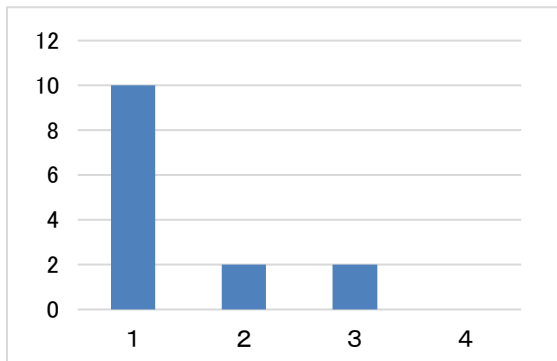
2. セミナーの内容で特に印象に残った点は何ですか？

- ・ 困難症例をたくさん学ぶことができた
- ・ 五感に寄り添う事
- ・ 口から食べると当たり前に考えていた事がいかに大事かということ
- ・ 食べることがすべての活動に繋がり患者の顔つきがみるみる変わったこと
- ・ スプーンの動きが自分はまだまだなぁと思いました。また、介助される側を経験することで今後介助する時の参考になりそうだと思います
- ・ 困難症例の演習
- ・ 布団を使用したポジショニング

そう思われる理由を教えてください

- ・ スプーン操作を再学習できました
- ・ 難治症例を多数経験できました。
- ・ 分かっていることと理解することは違いますね
- ・ 目的は安全な食事介助でしたのでもちろん達成できましたが、まだまだ練習がたりません。頑張らないと！と思います。
- ・ 実際の食事場面や困難なケースの対処方法も学ぶことができたから
- ・ 改めて言語化しながらやることで頭の中で整理することが出来、職場に戻って他のスタッフに教えていくことが出来そうと思った

4. 今後の実践場面で活用できると思いますか？



1) かなりそう思う 2) まあまあそう思う 3) ふつう 4) 思わない

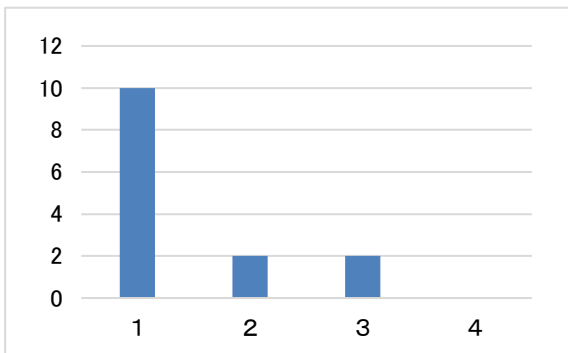
どんな場面で活用できるか具体的ご記入ください。
活用できない場合の理由もお願いします。

- ・今あるもので工夫してやって実践に近かったので活用しやすいと思います
- ・デイサービスでお昼食介助
- ・開口が困難な方への対応
- ・食事介助方法やポジショニング
- ・職場において食事介助の利用者は結構いらっしゃるの
で利用者に合わせて対応を心がけられるようにしようと思
う
- ・伝達研修で活用していきたい
- ・訪問歯科でお伺いする施設や病院から食事についてご

相談いただくことが時々あり、そこでアドバイスができればいいなと思っています

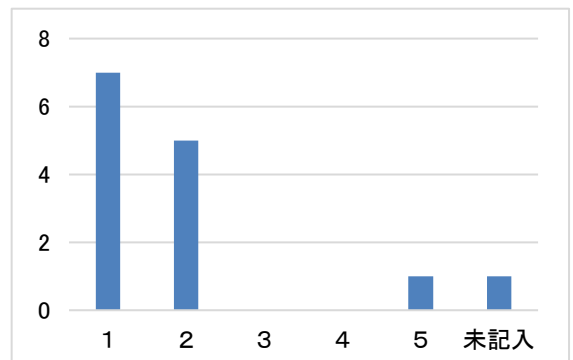
- ・実際に自分の病院にいる方の対応等を聞くことができた
- ・担当患者様のポジショニングで活かす材料になることが多かった
- ・食事介助の場面で活用できると思いますが、実践できる機会が少ないので自分でアンテナを張って
いこうと思います
- ・歯科医の立場から患者さん役に立てられればと思います
- ・自分で行う機会はありませんが、指導はできると思います
- ・認知症患者の食事介助

5. 今回、宮崎市での開催でした。今後、宮崎で KTSMの実技セミナーを開催予定されれば、参 加したいと思われませんか？



1) 是非参加したい 2) 参加を検討したい 3) 参加しない
4) 必要ない 5) わからない

6. 今回は基礎コースでしたが、今後、困難症例 対応などのアドバンスコース等が宮崎で開催 予定されれば、参加したいと思われませんか？



1) 是非参加したい 2) 参加を検討したい 3) 参加しない
4) 必要ない 5) わからない

問5について

(セミナー受講についての返答)

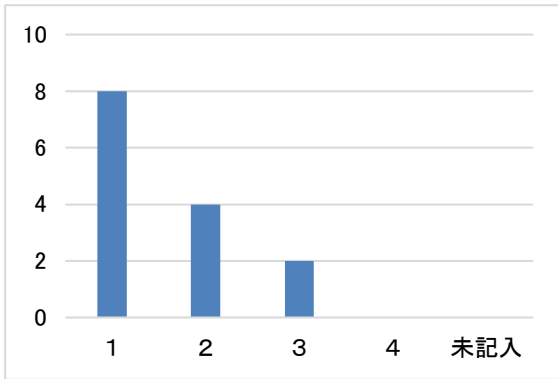
- ・スキルを高めるため
- ・確実な知識を他の方々に教えるため
- ・もっともっと勉強したいです
- ・なかり知識はもちろん技術が養われる、また何より楽しい
- ・まずは、今回学んで職場において実践し身につけてから次のステップに進んでみたいと思う
- ・自分のスキルアップのため
- ・今回基本的な実技だったため、さらに深い知識や実技を身につけたい
- ・何度も参加して実技を自分のものにしたい

(宮崎開催についての返答)

- ・少し遠かったです
- ・大分でもお願いします
- ・隣県の大分に住んでおりアクセスが割とよいので
- ・参加したいと思いますが遠いので迷うところです

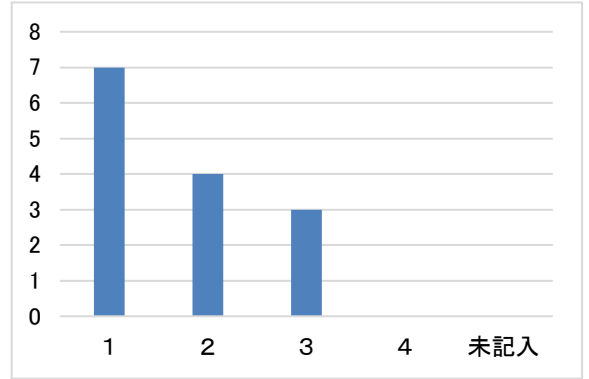
7. 今回、『認定食事サポーター』として認定されました。

① 今後、研修や臨床の現場で、認定食事サポーターとして活動したいと思いますか？



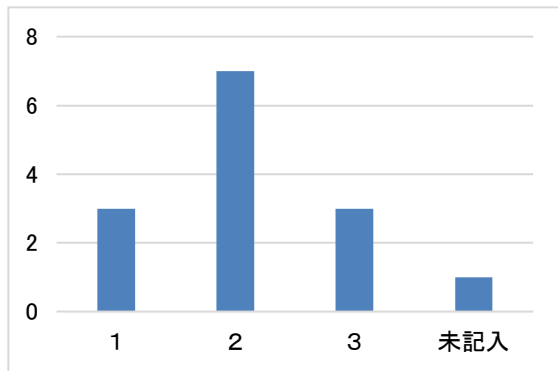
1)是非活動したい 2)活動してもいいかなと思う 3)自信がない
4)活動しない

② 今後、「認定食事サポーター」としての協力要請があった場合、どうしますか？



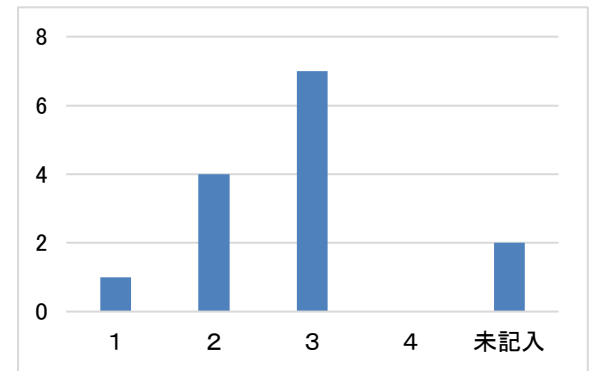
1)是非活動したい 2)活動してもいいかなと思う 3)自信がない
4)活動しない

8. 今後、KTSM 実技認定を取得したいと思いますか？



1)是非、認定を取りたい 2)取りたいとも思うが迷っている
3)取る予定はない 4)未記入

9. このようなセミナーや研修会を企画して、開催したいと思いますか？



1)是非活動したい 2)活動してもいいかなと思う 3)自信がない
4)活動しない

今回のセミナーは、受講者が15名と、かなり少なくなりました。しかし、そこを逆手にとって、受講者がじっくり演習できるよう、これまで受講歴のあった方は3名ずつのグループにし、じっくり困難場面の演習もできました。初心の方も、基礎をしっかり抑えること目標に、皆さんに学習してもらえ体制にしました。

これは正解でした！！

じっくり学ぶこともできました。しかし、より多くの方に、これらのスキルを学んでもらい、その有益さを知っていただきたいと思います。

これが、今後の課題です。

★最後に



受講者の皆さんと！

金先生
アドバイザー
実行委員のみなです！

ご参加、ありがとうございました！！
また、お会いしましょう♪

宮崎口腔リハビリテーション研究会
代表 清山美恵